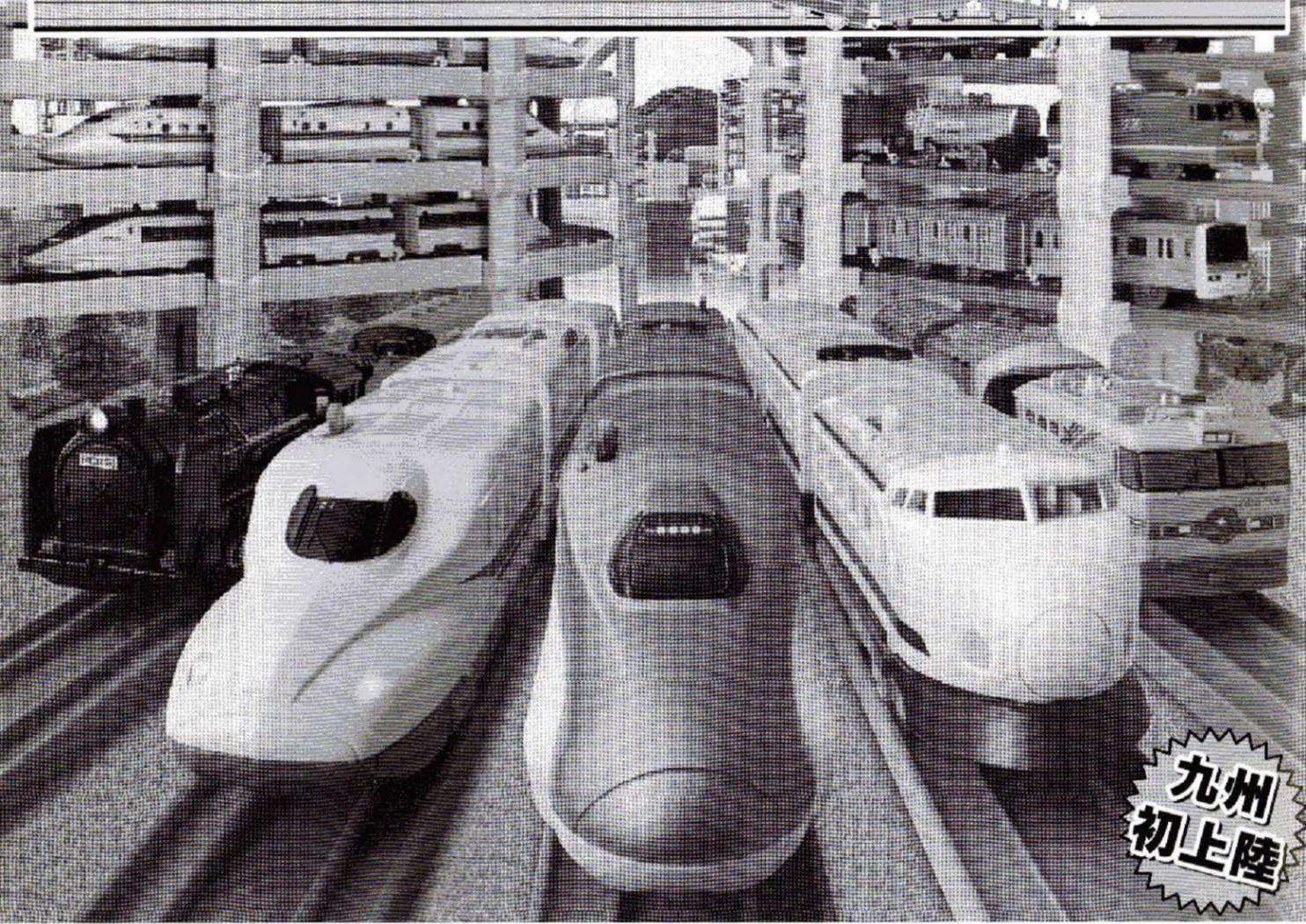


夢いっぱい。行こうよ! プラレールワールド



プラレール博 in KUMAMOTO



九州
初上陸

熊本県民第九の会 第30回記念演奏会
第55回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第30回

2014年 **1月** 1日(水・祝)~5日(日)
11日(土)~13日(月・祝)
※1月6日(月)~10日(金)はお休みとなります

グランメッセ熊本

T861-2235 熊本県上益城郡益城町大字福富 1010
時間 / 10:00~16:00(最終入場は15:30)

お問い合わせ / ●RKKプラレール博 係 TEL:096-328-5525 (平日 10:00~17:00/土日祝日は除く) ●グランメッセ熊本 096-286-8000 (9:00~17:00)

前売券 大人(中学生以上) 700円(税込) 当日券 大人(中学生以上) 900円(税込)
子ども(3歳~小学生) 500円(税込) 子ども(3歳~小学生) 700円(税込)
※上記入場料には入場記念品を含む。2歳以下は無料

チケット取扱い
●熊本交通センタープレイガイド/熊日プレイガイド
●チケットぴあ(セブンイレブン/サークルK・サンクス等) Pコード:988-414
●ローソンチケット(ローソン) Lコード:88484
●イープラス <http://eplus.jp> (PC・携帯・受取り:ファミリーマート/セブンイレブン)
●セブンチケット(セブンイレブン等) セブンコード:025-183

今回の入場記念品は
これだ!
**ドクター
イエロー
中間車**

(有料入場者のみ/無料入場の方を除く)
入場記念品は生産上の都合等により、直前に変更になる場合がございます。

〈主催〉 RKK熊本放送/熊本産業文化振興株式会社
〈後援〉 熊本県/熊本県教育委員会/熊本市教育委員会/益城町教育委員会
熊本県市町村教育委員会連絡協議会/熊本日日新聞社
〈特別協力〉 株式会社タカラトミー 〈特別協賛〉 パナソニック EVOLTA
© TOMY 「プラレール」は株式会社タカラトミーの登録商標です。

おすすめ!!
長もち乾電池
エボルタ
EVOLTA

RKK 熊本放送
<http://rkk.jp>

平成25年12月22日(日)午後6時15分
熊本県立劇場コンサートホール

主催 / 熊本県民第九の会・熊本県文化協会
共催 / (公財)熊本県立劇場

後援 / NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM79.1



熊本県知事

蒲島郁夫



熊本県立劇場館長

葉山完治



熊本県文化協会会長

吉丸良治



熊本県民第九の会実行委員長

神田一伸

第30回ベートーヴェン「第九交響曲」記念演奏会の開催を、心からお喜び申し上げます。

この演奏会は、クリスマスシーズンを飾る県民参加の音楽会として広く親しまれ、今では熊本における年末の風物詩となっております。

世界中で愛され演奏され続けているベートーヴェンの「第九交響曲」は、友人や家族など愛する人がいる人生の素晴らしさが歌われているといわれております。今回もこの思いに応えるように、県内全域から公募によって選ばれた300人の皆さんにより結成された合唱団は、指揮者の井崎正浩さんのもと、第一線で活躍される4人のソリストの方々と約100名の熊本交響楽団、その全てが一つとなり、一年の締めくくりにあふさわしい感動的な「第九交響曲」を聞かせていただけるものと楽しみにしております。

今年30回目を迎えるこのコンサートには、これまで延べ9,000人を超える皆様に参加され、熊本の文化振興に大きく貢献されております。そこで、県では、本県を代表する文化活動のひとつであり、今後も県民の大きな誇りとなるものであることから、昨年度「くまもと県民文化賞」を贈らせていただきました。熊本県民第九の会の皆様におかれましては、今後益々県の文化の発展にお力添えくださるよう、お願い申し上げます。

最後に本日の演奏会のご盛会と本日ご参集の皆様のご活躍をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

第30回記念演奏会おめでとう御座います。

このベートーヴェン「第九」の演奏会は、熊本県立劇場の創立以来ともに歩み続けてきた唯一の演奏会です。本来なら、去年30周年の記念演奏会となるべきでしたが、県立劇場の30周年のガラコンサートに協力を頂いたため、1年遅れの記念演奏会となりました。「熊本県民第九の会」の皆様の寛大なる友情に改めて感謝し、本日の記念演奏会を心よりお祝い申し上げます。

今宵も、ご出演の皆様の熱意をもって、人々の絆や連帯を呼び起こす「歓喜の歌」がコンサートホールに鳴り響くものと思います。

この記念演奏会のタクトを振るのは、ブタペスト国際指揮者コンクールの優勝者で、ハンガリーを中心にヨーロッパで活躍した井崎正浩さんです。今回が3回目の指揮となります。

ソリストは、ソプラノの佐々木典子さん、アルトの大林智子さん、テノールの大澤一彰さん、バスの佐久間伸一さんです。いずれも熊本県出身で、「第九」では、おなじみの方々です。

合唱には、今年も300人余りが参加し、管弦楽は熊本交響楽団です。

その歌声と演奏は、熊本の音楽文化を支えてきた「第九」演奏会の歴史の重さを改めて確認するとともに、新たな伝統に向けたスタートになるものと確信しております。

30年にわたり、この「第九」を支えてきた多くの方々と共に、この演奏会を喜び、楽しみ、祝いあって、これからも力強く続く演奏会であることをお祈りしたいと思います。

第30回の「熊本県民第九の会」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

この演奏会は、昭和57年熊本県立劇場の落成を記念して始まっていますが、クリスマスシーズンを飾る県民参加のすばらしい音楽祭として親しまれています。これも「熊本県民第九の会」の皆様の長年のご努力の賜であります。

ベートーヴェンは、この「第九交響曲」の終楽章に、4人の独唱と混声合唱を取り入れ、人間の尊厳と人類愛を世界に向けて呼びかけたと言われており、世界中で愛され、親しまれ演奏されてきました。

今年の演奏会の指揮は井崎正浩さん、ソリストに佐々木典子（ソプラノ）、大林智子（アルト）、大澤一彰（テノール）、佐久間伸（バリトン）の皆さんをお迎えしております。

合唱団員は、公募で選ばれた300名と熊本交響楽団100名の演奏となります。皆さん8月以降厳しい練習を繰り返しての演奏であるだけに、迫力ある歌声とオーケストラが融合し、さらにステージと会場が一体となった感動の音楽会になることでしょう。

ここに30回目を迎えた「第九」演奏会の出演者の皆さん、そして広く御支援、御協力いただいた皆さんに深く御礼申し上げますとともに、本演奏会の御盛会をご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

本日は年末のお忙しい中、「熊本県民第九の会」第30回記念演奏会へ足をお運びいただき心より感謝申し上げます。昭和57年12月に県立劇場の柿落としとして、故山田一雄先生の指揮で第1回演奏会が開催されて32年が経過しました。この間、「熊本県民第九の会」の実行委員長も故有馬俊一先生、下田宰城先生、林原隆治先生、草刈秀士氏、故草刈秀克氏と世代交代を重ね現在に至っております。この他にも熊本県文化協会や熊本県立劇場をはじめとする関係各位の力強いご支援が支えとなり本演奏会が熊本の年末の風物詩となっている次第です。

今回の指揮は現在ハンガリーと日本で活躍中の井崎正浩先生です。平成10年、15年に続き3度目となります。ソリストはソプラノに熊本出身の佐々木典子先生、アルトは2度目となる大林智子先生、テノールは昨年に続いて大澤一彰先生、バスは熊本のオペラ界を牽引する佐久間伸一先生です。

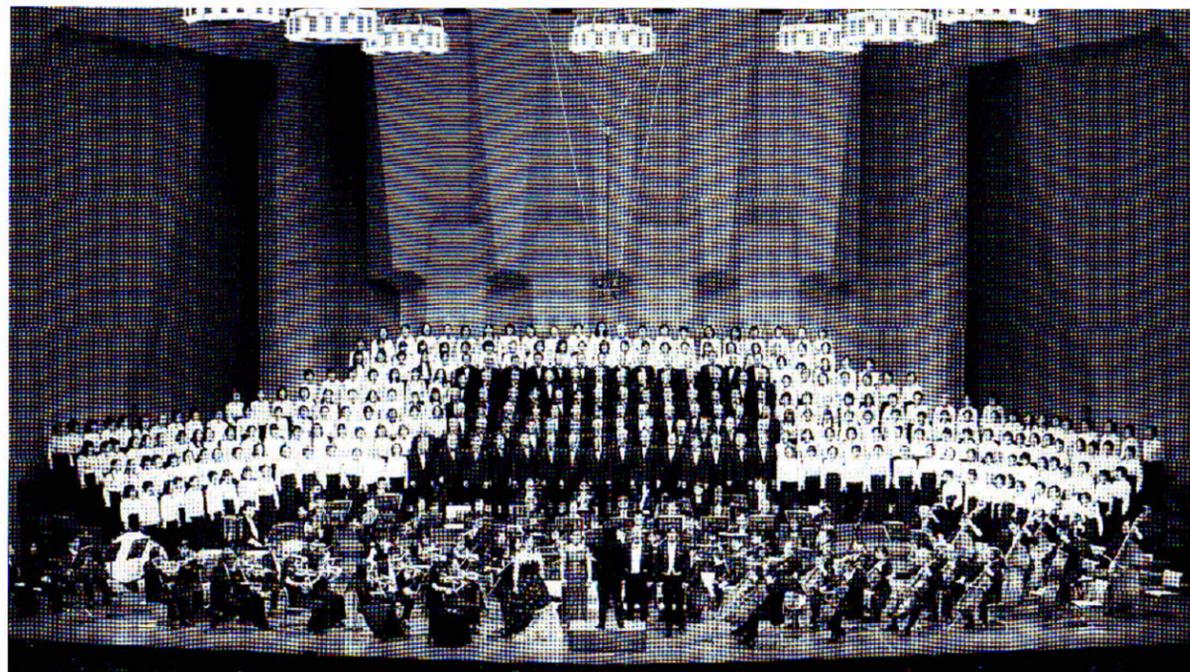
今回は30回目の記念演奏会です。アンコールで第九の「歓喜の歌」の部分をお席の皆様と一緒に奏でたいと思っております。パンフレットに添付の楽譜を参考に合唱の程よろしくお願い申し上げます。

今年も素晴らしい第九が一人でも多くのお客様の心に残るよう演奏したいと思います。県民の第九の会です。今後とも末永くご支援のほどどうか宜しくお願い申し上げます。

指揮 井崎正浩
 独唱 ソプラノ 佐々木典子
 アルト 大林智子
 テノール 大澤一彰
 バリトン 佐久間伸一
 合唱 熊本県民第九の会合唱団

合唱指揮 平和孝 嗣
 工藤勇 壹
 松岡 聡
 中島章 利
 ピアノ 古閑恵美 澄
 星子眞 澄
 林原ゆり 文
 隈部 文

管弦楽 熊本交響楽団



平成23年12月25日(日)《第29回熊本県民第九の会演奏会(指揮=新田ユリ)》



指揮 井崎正浩
(いざき まさひろ・Masahiro Izaki)

現在ハンガリーを拠点にヨーロッパ、そして日本各地で活躍を続けている指揮者。2007年よりハンガリー・ソルノク市の音楽総監督に就任し、同市に所属する音楽・文化団体及び施設を総括する重責を担っている。就任以来例年ソルノク市立交響楽団の定期演奏会前売り券が数日で完売し、その反響と期待の大きさが伺えるだろう。2009年11月には同市響及び合唱団を率いた来日公演で大成功を収め、こうした活動から同年のNewsweek紙において「世界が尊敬する日本人～文化の壁を越え異国で輝く天才・鬼才・異才100人」の一人に選出され、また翌年発売の「音楽の友」誌3月号特集「いま、海外で活躍する日本人演奏家たち」においても海外で活躍する日本人演奏家として指揮者20名の中選ばれ掲載される栄誉を得た。最近では昨年10月にロシア・ナショナル管弦楽団を指揮してモスクワでのデビューを果たし、また今年3月にはベルリン交響楽団演奏会への客演も行い、こうした国際的な今後の活躍に期待が集まっている。

1995年第8回ブダペスト国際指揮者コンクールで優勝。コンクール中の演奏を国立オペレッタ劇場総裁に認められ、同年同劇場でレハール作曲《メリー・ウィドウ》を指揮しセンセーショナルなデビューを飾る。これまでハンガリーの主要オーケストラ及びハンガリー国立歌劇場に次々と客演し、ソムバトヘイ市・サヴァリア交響楽団の芸術監督兼常任指揮者、ブダペスト・オペレッタ劇場客演指揮者などを歴任してその名を確立し、“5つの竖琴国際音楽祭”委員会からは才能と実績あるアーティストに贈られる「リラ大賞」を授与されている。

日本では1996年1月、東京シティ・フィルのニューイヤー・コンサートでのデビューを皮切りに、読売日響、日本フィル、東京フィル、東響、九響、セントラル愛知響等の主要オーケストラに次々と連続客演して定評を得る一方で、新国立劇場、文化庁主催オペラガラ、国際オペラコンクールin Shizuokaでの本選指揮など活躍の場を広げ、その手腕は高く評価されている。

熊本県民第九へは平成15年以来、10年ぶりの出演となる。

佐々木典子(ささき のりこ)

ソプラノ



武蔵野音楽大学卒業後、ザルツブルクのモーツァルテウム芸術大学オペラ科を首席で修了。その後、ウィーン国立歌劇場オペラ研修所を経て、同歌劇場にソリストとして本契約する。ウィーン国立歌劇日本公演、夏期並びに復活祭のザルツブルク音楽祭のオペラ公演に出演。ウィーンを始めヨーロッパ各地の劇場で数多く出演の他、マラー「交響曲4番」、「子供の不思議な角笛」、オネゲル「火刑台のジャンヌ・ダルク」、シュトラウス「四つの最後の歌」など、コンサートにも、多数出演。帰国後は、二期会、数々の団体で、「魔笛」パミーナ、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオリディージ、「真夏の夜の夢」ヘレナ、「こうもり」ロザリンデ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、「ニルンベルクのマイスタージンガー」エファ、「タンホイザー」エリザベートなど、主役には不可欠な存在としてその地位を確立。また特に、R・シュトラウスの作品は、重要な地位をしめ、「ばらの騎士」元帥夫人、「ダナエの愛」(演奏会形式)ダナエ、「ダフネ」ダフネ、「ナクソス島のアリアドネ」プリマドンナ、アリアドネ、「カプリッチョ」伯爵令嬢、など多数出演し、卓越した音楽性と表現力は、世界的巨匠をはじめとする共演者からも常に尊敬と信頼の対象とされている。

2013年7月、8月、二期会主催、「ホフマン物語」出演。

CDオールR・シュトラウスのプログラム「四つの最後の歌」。

熊本市女性賞、第2回ホテルオーケラ音楽賞受賞。

東京藝術大学音楽学部教授。二期会会員。

大林 智子(おおばやし ともこ)

メゾ・ソプラノ



東京芸術大学卒業。同大学院修了。二期会オペラ・スタジオ修了時に優秀賞受賞。1986年、第23回日伊声楽コンクール入賞。1988年、第7回新人声楽コンクール第3位。1992年文化庁芸術インターンシップ研修員。2005年文化庁在外研修員としてドイツ・ミュンヘンに留学。

オペラでは、二期会公演「ワルキューレ」、「ヘンゼルとグレーテル」、「神々の黄昏」、「修道女アンジェリカ」、「蝶々夫人」などに出演。また、2001年から4年がけて行われた新国立劇場のトーキョー・リングとして話題になった、ワーグナーの「ニーベルングの指環」の「ラインの黄金」「ワルキューレ」「神々の黄昏」に出演。2006年には新国立劇場鑑賞教室で「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントゥツァを歌い新境地を開拓。2007年も新国立劇場で「蝶々夫人」スズキ、「ファルスタッフ」ページ夫人メグを歌い、日本人離れした歌唱力と共にその演技力を高く評価された。2009年は、「蝶々夫人」「ラインの黄金」「ワルキューレ」子供オペラ「ジークフリートの冒険」2010年は「神々の黄昏」「鹿鳴館」の初演、2011年は「蝶々夫人」と、新国立劇場での出演が続いた。コンサート活動でも、N響、都響、東響など数々のオーケストラでミサ曲や第九のアルト・ソロを務めている。1996年ニューヨークのカーネギー・ホール、2005年ドイツ・コブレンツ、2006年ドイツ・ドレスデン、2008年ウィーン楽友教会にて「第九」のアルト・ソロで現地のオーケストラと共演し、いずれも好評を博した。2009年6月にはジョイント・コンサート、2012年、2013年にはリサイタルを行う等、まさに今脂ののった活動をしている。

二期会会員

大澤 一彰(おおさわ かずあき)

テノール



東京芸術大学卒業、ローマで研鑽を積む。2008年第44回日伊声楽コンクール第1位、併せてYKK音楽賞、読売新聞社賞、文部科学大臣賞等を受賞。サントリーホールの入賞者披露記念コンサートでは、『清教徒』『連隊の娘』のアリアで、ハイC#・ハイCを連続し聴衆を沸かせる。第1回ルーマニア国際音楽コンクール声楽部門第1位、及び全部門より最優秀賞。180cmを超える恵まれた体躯と日本人離れした高音で、オペラでは常にプリモテノールを務めており、第17回三菱UFJ信託音楽賞受賞「ファルスタッフ」フェントンでは、新聞紙上にて「耳を奪う美声」と絶賛される。その他、松尾葉子指揮「アイダ」ラダメス、林康子プロデュース「蝶々夫人」ピンカートン等出演。熊本での活躍としては、熊本城築城400年記念オペラ「南風吹けば楠木若葉」主役の横手五郎惟宗、NHK熊本「くまもと歌物語音楽祭〜わが心の熊本メロディー」、熊本県立劇場「県民第九」、山田和樹指揮「30周年記念ガラコンサート」等出演。

2012年、東京二期会創立60周年記念オペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥのドラマティックな歌唱は高い評価を受け、NHK「BSプレミアムシアター」で全曲放映、大晦日の「らららクラシック」ではその年の国内オペラの代表として取り上げられ話題を呼んだ。

2013年1月「第56回NHKニューイヤーオペラコンサート」出演。6月に初CD「シチリアーナ」をリリース。

2014年両国国技館「五千人の第九」ソリスト。

<http://www.k-osawa.com/> 二期会会員

佐久間伸一(さくま しんいち)

バス



東京芸術大学声楽専科、及び東京二期会第17期オペラ研究生修了後、75年渡欧、イタリア国立ヴェルディ音楽院に学び、A・シリオッティ、E・カンボガリアーニ、A・ベルトラミの諸氏に師事。第5回イタリア声楽コンクール金賞(日)、ヴェルディ記念ベルガモ国際声楽コンクール第2位(1位なし)、B・ジューリ国際声楽コンクール第2位(伊)、第27回トゥールーズ国際声楽コンクール第3位並びにオペラ特別賞(仏)の他、受賞多数。十余年の在欧中、マチェラータ夏期野外オペラフェスティバル、在イタリア日本大使館主催リサイタル、イタリア国立トリノ放送交響楽団のオラトリオソリストなど、ヨーロッパ各地にて活躍。東京二期会40周年記念オペラ「トスカ」「ヴェルディの祭典」「運命の力」「ドンカルロ」他数々のオペラに出演、「NHK・FM」「第九」「メサイア」等多数出演、抒情性豊かな正統派バス歌手として高い評価を受ける。87年、熊本シティ・オペラ協会を設立、99年日・伊・仏・ガリ3国共同オペラ公演「アイダ」をプロデュース、イタリア紙「オペラ」に絶賛される。今年9月、西本智実指揮によるヴェルディ生誕200周年記念オペラ特別公演「椿姫」を企画制作、大好評を博す。今日まで毎年イタリアオペラを継続公演し、後進の指導にも力を注ぐ。第31回熊本県文化懇話会賞、第8回くまもと県民文化賞、熊本県芸術文化祭50周年記念奨励賞受賞。現在、東京二期会会員、熊本シティ・オペラ協会代表、熊本県新人演奏会実行委員・審査員、熊日学生音楽コンクール審査委員、NHK楽しい歌曲とカンツォーネ講師、コーロ・フェリーチェ及び熊本ヴェルディ合唱団指導者。



ひら わ たか つく
平 和 孝 嗣
(バリトン)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁オペラ研修所入所（第一期生）。ウィーン国立音楽大学卒業（オーストリア政府給費留学）。これまで22回のソロ・リサイタルを開催し、熊本を中心として東京やドイツ、ウィーン等でも公演を行ってきた。その他、多くのオペラやコンサートにも出演。また、九州でのさまざまな音楽コンクールの審査員も務めている。現在、熊本大学教育学部教授。



工 藤 勇 壹

国立音楽大学声楽科卒業。7年間、二期会合唱団に所属し数多くのラジオ、テレビ、オペラなどに出演。昭和49年より九州女学院高等学校に勤務し、九州女学院合唱団の指揮者として熊本県代表、九州代表へと導いた。現在、碩台公民館合唱サークル、ルーテルマミーコール、フリーデ・コール、デメーテル男声合唱団指揮者、熊日学生音楽コンクール審査員、NHK全国学校音楽コンクール審査員、高文連音楽コンクールの審査員などを務める。本年、荒木精之記念文化功労者を顕彰。



中 島 章 利

北海道大学卒業。中学校、高校時代を熊本で過ごしサッカー部に所属していた。大学入学と同時に女子学生の甘い勧誘によって合唱に引きずりこまれ現在に至る。合唱指揮を木内宏治氏(前北海道合唱団指揮者)、管弦楽指揮を栗田哲海氏(九州交響楽団他の指揮者、春日市民交響楽団常任指揮者)に師事。声楽を中尾富子、石田久大、三浦國彦氏の各氏に師事。昭和61年札幌市新人音楽会声楽部門に出演。札幌市で多数の合唱団を指導。帰福し、現在、ロシア作品を中心に歌う女声合唱団チャイカを主宰。男声合唱団KGC指揮。福岡合唱指揮者協会会員。



松 岡 聡

宮崎大学特設音楽科声楽専攻卒業。新圭子、ジェラルド・スーゼ、松本美和子、堀内康雄諸氏に師事。教職に就きながら「歌うこと」の夢を追い続け、オペラや演奏会でソリストとして出演。また不定期ではあるがリサイタルを開いている。平成8年より熊本県民第九の会合唱指揮者、熊本市立東町中学校教諭、熊本県文化懇話会会員。

ピアニストプロフィール



古 閑 恵 美

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。数多くの演奏会にソリストとして出演する一方、著名な演奏家と共演。現在、合唱団Le Grazieピアニストをはじめ、様々な演奏活動を行っている。尚絅短期大学、中九州短期大学、熊本学園大学講師を歴任。



星 子 眞 澄

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。オーストリア・ウィーン私立プライナー・コンセルヴァトリウム2期修了。国立音楽大学卒業演奏会、熊本県新人演奏会、西日本新人演奏会に出演の他、3回のソロリサイタルを行う。現在、ルーテル学院大学兼任講師、熊本市立必由館高校芸術コースピアノ講師、熊本文化懇話会会員。



林 原 ゆ り

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会等に出演。ソロ・デュオコンサート開催。合唱・声楽・器楽等の伴奏ピアニストとして活動している。熊本県立第一高等学校合唱団、コールソレイユ、コロフィオーレ伴奏ピアニスト。



隈 部 文

国立音楽大学教育音楽学科リトミック専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会などに出演。リトミック国際免許保持者。現在、平成音楽大学教授、熊本YMCA学院講師、リトミック研究センター熊本支局指導スタッフ。また、幼稚園、保育園、高齢者施設でもリトミックを行っている。

1. 楽劇「ニルンベルグのマイスタージンガー」
第一幕への前奏曲
ワーグナー

2. 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

- 第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso
- 第2楽章 Molto vivace
- 第3楽章 Adagio molto e cantabile
- 第4楽章 FINALE

皆さん一緒に第九を歌いましょう

熊本県民第九の会は、県立劇場の柿落としの事業として「ベートーヴェンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大変好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者、ソリスト、約100名からなるオーケストラ、そして約300名の合唱団。この大編成のステージに立って同好の仲間と歌う感動・感激は体験した人しかわかりません。

聴くだけでも感動する「ベートーヴェンの第九」です。皆様方も、この第九の合唱に参加し、体験することで、感動を一層大きく深いものにしてみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年6月上旬からはじまり、7月末日が締め切りとなっています。「合唱団員募集要項(申込書)」は6月上旬から県立劇場・崇城大学市民ホール・西野楽器店その他県内の主要文化施設に置きますのでご利用下さい。

練習期間は8月中旬に結団式を行い、9月から12月まで月3回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後合計13~14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。

皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会
お問合せ 事務局 090-2851-1007

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmer anstimmen, und
freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

バリトン独唱・合唱

喜びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

四重唱・合唱

大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情を勝ち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
喜びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、
自然の胸から喜びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
喜びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルピムは、神の御前立つ。

テノール独唱・男声合唱

喜びよ、喜びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
喜びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

合 唱

たがいに手を取り合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1. 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」
第一幕への前奏曲
ワーグナー

今年、生誕200年にあたるワーグナー（1813-1883）は、1813年ドイツ・ライプツィヒに生まれた。ワーグナーの一家は大変な音楽好きで、家庭内で演奏会などをよく開くなど、ワーグナーは幼いころから音楽に親しみ、特に一家と親交があった作曲家ウェーバーからは強い影響を受けている。また、15歳のころベートーヴェンに感動し音楽家を志すこととなる。同時に演劇にも強い関心を持ち、のちにワーグナー独自の芸術を生み出す原動力となる。ワーグナーは17歳のころベートーヴェンの「第9交響曲」をピアノ版に編曲したりしている。

ワーグナーは、「無限旋律」や「ライトモチーフ（指示動機）」という手法を用いることによって、特定の登場人物やその状況などを連想することが出来るようにした。さらに文学や演劇、絵画などの要素を導入することで、従来のオペラを総合芸術としての楽劇に改革した。

楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」は、1867年ワーグナー54歳の作品で、かれの多くの作品が超自然的な世界や神秘性を題材としているのに対し、ここでは歴史的事実による人間性を題材とした喜劇性の強い作品となっている。

物語は16世紀のニュルンベルグでの史実に基づいたものである。金細工師の娘エーファに惹かれている青年騎士ヴァルターは、歌合戦に優勝した者にエーファの婿となる権利が与えられることを知る。靴屋でマイスタージンガーの称号を持つハンス・ザックスは、エーファに密かに恋心を抱いているが、エーファがヴァルターに惹かれていることを知り、恋敵であるヴァルターに歌合戦に勝つ要領を教える。ヴァルターは見事に歌合戦で優勝し、彼女の花婿になる権利を得る。歌合戦に優勝したことでマイスタージンガーの資格を得たヴァルターは、一旦はその資格を拒絶するがザックスに説得されて称号を受け入れることにする。そしてヴァルターは無事にエーファと結ばれる、というものである。

「第1幕への前奏曲」は厳かで堂々とした「マイスタージンガーの動機」によって開始され、優しく美しい「愛の動機」、力強い「マイスタージンガーの行進」の動機など、楽劇中の登場人物や状況を表すライトモチーフが多く用いられているため、楽劇全体のハイライトとしての役割を十分に果たしている。

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのゲルトナート劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

楽 曲 解 説

TUNE ; EXPLANATION

〔第一楽章〕Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をささぐる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識を把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「飲みの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような

明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がごとくに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの軟ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながらかつて全合奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わせられて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター 中島章利 CHORUS

Soprano
(ソプラノ)

相川 久仁子
青谷 正代
阿部 奈津子
池田 三千代
井芹 順子
入部 一代子
岩木 恵子
岩永 宣子
上野 祐子
上村 貴世
上村 治美子
大溝 逸子
大村 由美子
岡沢 康子
緒方 和子
岡田 美花
小倉 真理子
小山 静子
梶原 紀久子
川田 幸子
河原 恵理子
川部 恵子
吉良 久子
工藤 たみ子
久保田 雅子
蔵元 由美子
栗崎 博子
小島 淑子
古城 久美子
児玉 真由美
堺 敬子
佐藤 淑子
沢田 和代子
清水 圭子
下田 夏緒
白石 昭恵
杉 輝子
杉本 由美子
高岡 久美子
高田 硯子
高田 森さつき
田島 幾子
田中 フミヨ
谷口 登紀子
種子野 栄子
近田 綾子
鶴田 範子

寺澤 孝子
遠矢 久子
中尾 美和子
永田 桂子
中村 えみ子
中村 久代子
橋本 淳子
服部 敬子
濱田 洋子
濱野 史織子
早田 章子
原 聖子
春田 香子
東 恵子
日吉 由伎瑚
藤田 悦子
福田 睦子
藤崎 和美子
前田 いずみ
増永 明美子
松川 千晶子
松永 洋子
松本 和代子
松村 紀子
松門寺 阿古
松山 テル子
三島 多恵子
光延 美知恵
宮石 照代
宮本 奈都美
宮本 はつみ
村上 実枝子
山隈 由紀
山崎 はるみ
山本 美穂子
横田 味詠子
吉武 信子
吉野 光子
チンシュウエン

Alto
(アルト)

明石 瑠璃子
荒木 のり子
荒木 弥生
石原 昌子
伊藤 公子
伊藤 春美子
伊藤 律子
井野 亮子
今井 堯子
今村 かをる
入江 鮎
岩坂 美紀子
牛島 絹子
内田 禮子
梅村 恵美子
江崎 恭子
大久保 康子
大塚 喜久子
大塚 幸子
大堂 喜三子
大沼 美智子
緒方 満喜子
緒方 由美子
沖米田 恵子
稼 悦子
加茂 千枝子
川上 喜久子
川崎 節子
川野 田津子
菊池 吟子
北原 雅子
木下 由美子
木原 美智代
北村 秋代
清川 光乃
清永 ヤヨヒ
清原 真理子
吉良 圭子
草刈 登喜代
倉岡 睦
倉田 美穂
栗崎 肇子
古賀 紀久子
後藤 佳子
小宮 千家子
榊原 美智子

佐藤 加代子
佐藤 美由紀
品川 あかつき
芝原 登美子
下田 和代子
杉本 弘子
高尾 ゆり
高濱 左衛子
高比良 栄子
田川 珠恵子
竹下 敬子
竹田 綾子
田中 千勇子
田辺 裕子
田村 直子
千年 美穂子
塚本 和子
辻 幸子
鶴園 葉子
内藤 邦子
長尾 恭子
中垣 紀実恵
中川 さよ
中川 伸子
中島 マサ子
中野 俊子
長廣 よし子
中山 弘子
名島 和美子
西田 美津子
西村 侑里子
西山 尚子
野村 ちひろ
橋口 泰子
長谷川 すみよ
馬場 美也子
濱田 敏子
早川 陽子
平井 幸江子
平田 富子
平野 玲子
廣重 邦子
廣田 邦子
福嶋 邦子
藤原 美智子
藤山 朋子
船越 絹代子
古谷 道文
堀 文香
本田 悦子
本田 美加子
正木 恒子
益田 留美子
松尾 留美子
松村 恵美子
松本 節子
松本 美知代
水野 和子
峯田 道子
三宅 恵美子
宮辺 浩子
宮原 徳子
村上 早智子
村上 博子
村上 美千代
森 敬子
森 幸子
森 扶美代
安田 美喜子
柳田 恵子
柳田 美紀
山崎 晴美
山下 富江
山下 久恵
山道 きよの
山村 玲子
山横 田優子
吉田 真澄
吉田 由美子
米村 光子
若槻 スミ子

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田 幸城	委員(事務局)	坂口 幸男	黒葛原 潔
	本山 洋	委員	今村 隆志	藤本 幸弘
	林原 隆治		川田 幸子	松岡 聡
	草刈 秀士		高倉 正純	山崎 崇伸
委員長	神田 一伸		田北 洋康	

熊本県民第九の会をふりかえる

第2代実行委員長 下田 宰城

昭和57年12月28日、指揮者の故山田一雄先生以外は全て熊本県民による「第九」の壮大なフィナーレに続き、会場と一体となった「蛍の光」の大合唱は、将に一年の悼日を飾るに相応しい感動の演奏会でした。

県民待望の県立劇場落成の柿落としの一環として、県合唱連盟と熊本交響楽団による県民手作りのお祝いの演奏会をしようと企画され「熊本県民第九の会」を立ち上げたのがスタートとなりました。爾来、年末の第九演奏会として30回目を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

これも偏に、実行委員の方々のご努力とご苦労の賜物と敬意を表します。

また県内各地より練習に参加くださる合唱団員の皆さん、多忙なスケジュールで第九に取り組んでくださる熊響の皆さん、そして毎年足を運んでくださる多くのお客様によって30年の歩みが積み重ねられました。

私事で恐縮ですが、昨年急病で救急車により搬送された総合病院で、院長先生が「私は嘗て第九の合唱団でお世話になりました」と仰有って頂き、激痛が少し和らぐ安堵感を覚えました。これも第九の縁と感謝しています。

この「第九の会」の活動に多大なご尽力なされた実行委員の方々も、有馬俊一先生始め五名の方が故人となられました。ご冥福をお祈り申し上げますと共に30年の歳月をしみじみ感じます。

皆様のご努力によって、年末恒例のイベントに終わらず、お出で下さるお客様に毎年新たな感動を与えることが出来ますようますますのご発展ご活躍を祈念いたします。

第3代実行委員長 林 原 隆 治

昭和57年12月に県立劇場の落成記念事業として始まった、ベートーヴェン第九演奏会が30年を迎えることとなり、第一回演奏会から20数年に亘って関わった者として、心よりお祝い申し上げます。第九の会における私の主たる仕事は合唱指揮でした。これは、応募された400名近い県内の合唱好きの皆さまに、第四楽章の合唱部分「歓喜の歌」を、まずは標準的な歌い方やテンポをお教えし、合唱団としてまとまってきたら、本番指揮者に予めお尋ねしておいた音楽作りに合わせて合唱を再指導し、演奏会近くで本番指揮者にお渡しするという仕事です。本番まで10数回の練習で、団員が毎年異なる合唱団を、整った合唱団へとどう導いたら良いか、長年に亘って勉強させて頂くことが出来ました。また、400名近い大型合唱団の指導をさせて頂いたことは、望んでもなかなか得られない貴重な経験であったのだと改めて感謝しているところです。

第九の会から離れてすいぶん経ちますが、それでも時々見知らないかたからご挨拶を頂くことがあり、たぶんかつて第九の会で歌われた方々だろうと思います。30周年に際し、これまで歌い継がれてこられた皆さまや関係者の皆さまに感謝しつつ、今後の更なる発展をお祈り申し上げます。

第4代実行委員長 草 刈 秀 士

30回目の演奏会を心より慶祝申し上げます。県民第九の会の演奏会は昭和57年の県立劇場開館の柿落としの行事として、熊本県民の総力を結集した手作りの音楽を熊本県民の皆様に届けようという趣旨から、オーケストラは熊本交響楽団、ソリストは出来る限り熊本県出身者や所縁のある方で全国的に活躍している方を、合唱は広く県民に呼びかけ新しく組織するという事で始まったと聞いています。まさに熊本県民の手作りの大演奏会です。

その後も毎年合唱団は広く県下に呼びかけ募集しており、毎年平均50名程が新しく新旧団員の入れ替わりで合唱団に入っております。指導される先生方も大変だったと思いますが、300名を超える大合唱団の中で歌うしかフルオーケストラと歌う感激は経験した団員の一生の貴重な思い出になっていると思います。この30年で少なくとも延べ人数にすると9000名以上の団員がこの感動を体験したことになります。

私も当初団員として歌わせて戴きましたが、ベートーヴェンの第九は歌っても聴いても感動する名曲です。聴きに来て戴いた皆さま方も一度ステージに立って歌ってみませんか？

第九の演奏会は、かつては日本全国津々浦々で行われていましたが、最近はその組織が消滅し、年々減少しています。熊本の第九は県民の手作りの大演奏会を是非継続していただきたいと思っています。実行委員・合唱指導の先生方には大きなご負担をおかけしますが、よろしくお祈り申し上げます。

「第九と共に」

小 山 静 子 (ソプラノ)

私が「熊本県民第九の会」に参加したのは「熊本県民第九の会」第25回演奏会でした。初めて熊本県立劇場の大ホールで歌えたことに身の引きしめる思いの感動を覚えたものでした。

このたび「熊本県民第九の会」の演奏会が30回という節目の記念演奏会を迎えるに当たり、一段と熱が入るのを感じます。また、いろいろなエピソードや思い出と共にたくさんの友人もできました。九州でも屈指の音響を誇るこのホールで合唱できることは大変恵まれていて、幸福に感じます。「熊本県民第九の会」実行委員会の皆様のご指導のもと、今年も素晴らしいソリストの先生方や合唱の仲間と共に、ベートーヴェンの「第九交響曲」をこの劇場で声高らかに歌い上げたいと思います。

「心より出す 再び心に至らんことを！」

田 中 千 勇 子 (アルト)

「第九」公演が近づくと私はきまって大曲「ミサ・ソレムニス」を聴く。「キリエ」の初めにベートーヴェン自身によって記されたこの言葉の意味をあらためて確かめるために。それは、「Ihr stürzt nieder, Millionen?» からドッペルファーガに到るまでの深い精神性を求められるフレーズを自分なりに表現できるための必要な作業であると思っている。

シラーによるこの頌歌「歓喜に寄す」をベートーヴェンは若いボン時代にすでに作曲したいと考えていたという。そうであれば彼は約30年の間、膨大な作品群を世に送り続けながら、最後の交響曲の終楽章にその望みを果たしたわけである。「熊本県民第九の会」は本年第30回記念演奏会を迎えた。ここまで「熊本県民第九の会」を育ててこられた多くの方々、中でも実行委員会のメンバーの皆さんへの尽きぬ感謝と共に、更なる30年につないでいただくことを切に望んでやまない。

「第九に寄す」

柘 植 治 人 (テノール)

熊本県民第九演奏会が第30回を迎えた。30回と言えば実に30年間以上続いてきたということである。民間の団体としてこれだけ大きな事業を永く続けてこられたのは、県立劇場の支えもあったにせよ素晴らしいことといえよう。ここまで続けてくるには第九の会実行委員会の皆さんの並々ならぬご苦労があったらうと感謝の念で一杯である。

私はまだ16回の参加に過ぎない。最初は譜面を見てても直にどこを歌っているかわからなくなって困ったことを思い出す。熱心な先輩方にひっぱられながら現在に至っている。

この会に参加して嬉しいことは、色々な指導者・ピアニストに会えることである。その上に一流の指揮者の人格というか音楽に対する感性に触れることができることである。

オーケストラの演奏と共に歌える喜びは又格別である。80才にもなる私を、更に更にと惹き付ける。この会が第九を愛する方々の力を得て、何時までも続くことを祈念する。

ダイクによせて「第九は大苦？」

前 川 賢 夫 (バス)

第7回からの参加です。まずは挑戦！20代。音符も独語もお耳から。一人じゃ険しい山道も仲間とならば乗り切れる。そうは言ってもベートーヴェン、バス（低音）にも高音要求し、コワレタ楽器になった様。歌い終え、ガラガラ声がうらめしい…。深い精神性と音楽性に溢れる大曲だけに、部分的には毎年進歩しつつも、例えば高音での力の入れ方、いいえ抜き方がやっと近年分かってきたのかもしれない。オーケストラのバックに陣取らせてもらい、各々の楽器や演奏を間近で観察・鑑賞できるのは役得ですね。第三楽章、楽団のようなメロディに心を浮かばせて一年を自然と振り返っています。第四楽章のファンファーレが鳴り出すと姿勢を正して、体のチェックを始めます。毎回新鮮な思いで臨める不思議な曲、第九が心の支えであったことも少くないように思えます。ご指導頂く先生方、スタッフやメンバー、そして聴衆の皆様に感謝！しながら、歓喜と響きを精一杯届けます。やっぱり、楽しい第九。大好き！



第25回



第1回



第15回



第16回



第10回



第4回



第10回



第20回



第9回

熊本県民第九の会 30年思い出のシーン



第16回



第2回



第2回

第1回 昭和57年12月28日(火) 越天楽(雅楽)(近衛秀麿編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/大友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



大野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/フナヤマケンヂ



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) トッカータとフーガ 二短調(J.S.バッハ作曲/ストコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信

第7回 昭和63年12月25日(日) 序曲「コリオラン」八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/三縄みどり



木村 宏子



鈴木 寛一



平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/秋山恵美子



木村 宏子



成田 勝美



高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 「ロザムンデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/靱山 和明



独唱/山田 綾子



木村 宏子



大野 徹也



福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/西森 由美



木村 宏子



田中 誠



宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/河添富士子



春日 成子



小林 彰英



栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/岩永 圭子



妻鳥 純子



齋場 知昭

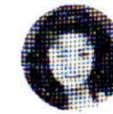


勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



妻鳥 純子



大島 博



大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) カンタータ第147番よりコラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) 序曲「コリオラン」八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/志岐由理子



妻鳥 純子



牧川 修一



小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



岩森 美里



井ノ上 了史



瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84 (ベートーヴェン作曲)



指揮/レオクレーマー



独唱/水野 貴子



青山智英子



持木 弘



松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b (ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



大島 幾雄

第19回 平成13年12月23日(日) 歌劇「魔弾の射手」序曲 (ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/佐々木典子



青山智英子



井ノ上 了更



松本 進

第20回 平成14年12月22日(日)



指揮/松尾 葉子



独唱/三縄みどり



杉野 麻美



米澤 傑



瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 喜歌劇「こうもり」序曲 (J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



米澤 傑



松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84 (ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎



独唱/安藤赴美子



一色 礼子



五十嵐 修



木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 序曲「コリオラン」 八短調 作品62 (ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



大間知 覚



佐久間伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b (ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/西森 由美



岩森 美里



井ノ上 了更



小川 裕二

第25回 平成19年12月23日(日) 混声合唱のための「うた」から (武満徹作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/佐々木典子



加納 里美



井ノ上 了更



佐野 正一

第26回 平成20年12月21日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84 (ベートーヴェン作曲)



指揮/澤 和樹



独唱/松本美和子



山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡

第27回 平成21年12月20日(日) 序曲「献堂式」 八長調 作品124 (ベートーヴェン作曲)



指揮/現田 茂夫



独唱/三縄みどり



加納 里美



樋口 達哉



堀内 康雄

第28回 平成22年12月26日(日) 「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84 (ベートーヴェン作曲)



指揮/角田 鋼亮



独唱/藤本いくよ



山下 牧子



大澤 一彰



小川 裕二

第29回 平成23年12月25日(日) 交響詩「フィンランディア」作品26 (シベリウス作曲)



指揮/新田 ユリ



独唱/本松 三和



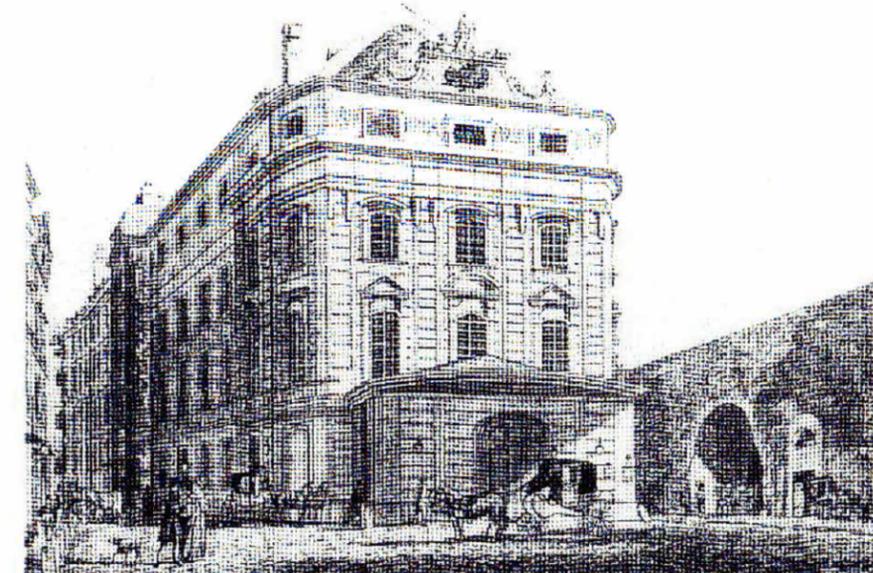
山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡



ベートーヴェンの第九交響曲の初演が行われたウィーンのケルントナーア劇場